

23日 木曜

エステル

9:17 これは、アダルの月の十三日のことであって、その十四日には彼らは休んで、その日を祝宴と喜びの日とした。

9:18 しかし、シュシャンにいるユダヤ人は、その十三日にも十四日にも集まり、その十五日に休んで、その日を祝宴と喜びの日とした。
9:19 それゆえ、城壁のない町々に住むいなかのユダヤ人は、アダルの月の十四日を喜びと祝宴の日、つまり祝日とし、互いにごちそうを贈りかわす日とした。

9:20 モルデカイは、これらのことと書いて、アハシュエロス王のすべての州の、近い所や、遠い所にいるユダヤ人全部に手紙を送った。

9:21 それは、ユダヤ人が毎年アダルの月の十四日と十五日を、

9:22 自分たちの敵を除いて休みを得た日、悲しみが喜びに、喪の日が祝日に変わった月として、祝宴と喜びの日、互いにごちそうを贈り、貧しい者に贈り物をする日と定めるためであった。

9:23 ユダヤ人は、すでに守り始めていたことを、モルデカイが彼らに書き送ったとおりに実行した。

9:24 なぜなら、アガグ人ハメダタの子で、全ユダヤ人を迫害する者ハマンが、ユダヤ人を滅ぼそうとたくらんで、ブル、すなわちくじを投げ、彼らをかき乱し、滅ぼそうとしたが、9:25 そのことが、王の耳にはいると、王は書簡で命じ、ハマンがユダヤ人に対してたくらんだ悪い計略をハマンの頭上に返し、彼とその子らを柱にかけたからである。

9:26 こういうわけで、ユダヤ人はブルの名を取って、これらの日をプリムと呼んだ。こ



聖書の記述

うして、この書簡のすべてのことばにより、また、このことについて彼らが見たこと、また彼らに起こったことにより、

9:27 ユダヤ人は、彼らと、その子孫、および彼らにつくる者たちがその文書のとおり、毎年定まった時期に、この両日を守って、これを廃止してはならないと定め、これを実行することにした。

9:28 また、この両日は、代々にわたり、すべての家族、諸州、町々においても記念され、祝われなければならないとし、これらのプリムの日が、ユダヤ人の間で廃止されることがなく、この記念が彼らの子孫の中でとだえてしまわないようにした。

自己中心な権力者ハマンは、ブルすなわちくじを引いてユダヤ人を滅ぼす時をニサンの月と決めましたが、その日は逆にハマンの滅びでありユダヤ人の解放のときとなりました。このブルこそが神の全能の救いの象徴であるとして、ユダヤ人は長く記憶するために、プリムの祭りとしたのです。

人は自分のために計画を持ち、特に神に敵対する者はその自己目的のために、はかりごとをめぐらしますが、結局最終的成就するのは神の計画です。

私たちはエステルやモルデカイのようにその勝利にあずかることができますが、それはあくまでも神様のご計画でありまた恵と憐れみです。それを忘れないように記念する必要があります。

主の恵を忘れないようにしましょう。自分中心な勝利ではなく、あくまでもへりくだるために主のみわざとして記憶しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

